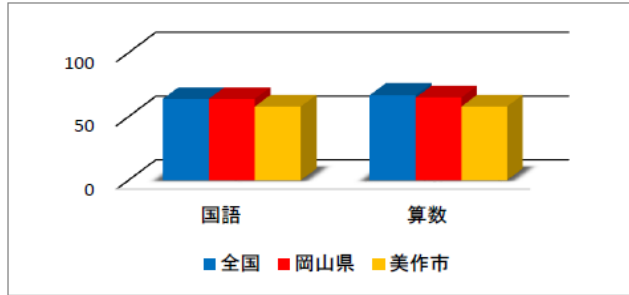


平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 小学校版【美作市 結果・概要】
美作市教育委員会 学校教育課

○平均正答率(小6) 割合(%)

	国語	算数
全国	64	67
岡山県	64	65
美作市	58	58

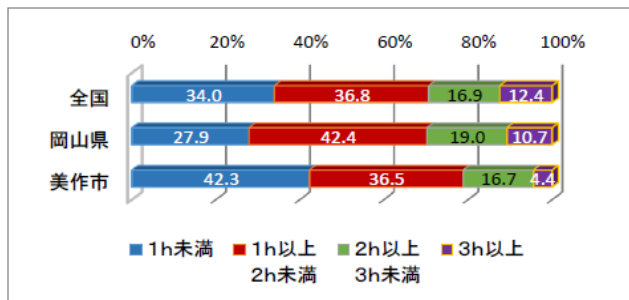
- ・国語、算数ともに、全国、県より6～9ポイント下回った。
- ・漢字や四則混合の計算にも課題が見られ、学んだことを定期的に学校や家庭で復習していく必要がある。
- ・活用力にも課題が見られ、引き続き学んだことを関連づけて考えたり説明したりする機会を授業の中で設けていく必要がある。



○平日の家庭学習時間(小6) 割合(%)

	1h未満	1h以上 2h未満	2h以上 3h未満	3h以上
全国	34.0	36.8	16.9	12.4
岡山県	27.9	42.4	19.0	10.7
美作市	42.3	36.5	16.7	4.4

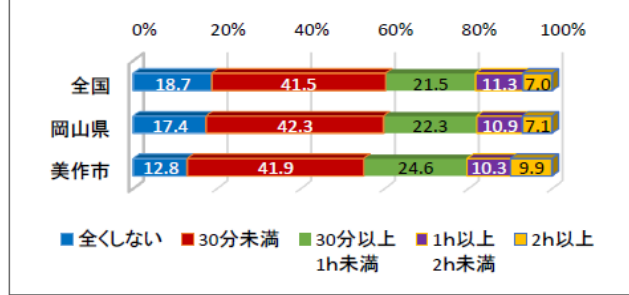
- ・家庭学習時間は昨年度と比較すると、1時間未満の割合が8.2ポイント増加した。
- ・1時間未満の割合は全国、県と比べ高い数値である。学校全体での取組はもちろん、家庭・地域と連携した具体的な取組が必要である。



○平日の読書の時間(小6) 割合(%)

	全くしない	30分未満	30分以上 1h未満	1h以上 2h未満	2h以上
全国	18.7	41.5	21.5	11.3	7.0
岡山県	17.4	42.3	22.3	10.9	7.1
美作市	12.8	41.9	24.6	10.3	9.9

- ・読書の時間については、「全くしない」という児童の割合は全国、県と比較すると少なく、30分未満の割合が多い。
- ・1時間以上の割合が全国、県の数値と比較すると少ない。



※全国学力・学習状況調査において明らかになった成果と課題

- ・漢字、計算といった基礎基本にも課題が見られたため、復習や補充学習の取り組みを継続していく必要がある。
- ・活用力を問う記述式問題について、無回答率が高い問題も見られた。問題を正確に素早く読み取ったり、根拠を示して自分の考えを書いたりすることが引き続き課題である。思考力や判断力、表現力を高めるため、言語活動を重視した授業づくりへの改善を続けていく必要がある。
- ・「国語の授業の内容はよくわかる」「算数の授業の内容はよく分かる」という質問では「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」という割合は全国平均並である。
- ・家庭学習時間は1時間未満の割合が全国・県と比較すると多く、昨年度よりも減少傾向である。学校で家庭学習の計画を立てたり、家庭学習時間の記録を取ったりするとともに家庭と連携しながら、家庭学習習慣の定着の取組が必要である。

※課題に応じた改善のポイント

○授業改善等の取組

- ・基礎基本の徹底
 - 学習内容を復習する時間や補充学習の時間を確保するとともに、家庭学習で反復練習を行い児童のつまずきを解消する。
 - 学校独自のテストや市が実施する検定、県が実施するテストで学力の定着状況を確認し、つまずきを解消する。
- ・「岡山型学習指導スタンダード」を基にした授業づくりと言語活動の充実
 - 書く活動を授業や補充学習、家庭学習で積極的に取り入れる。また、根拠を示しながら書いたり条件に合わせて説明したりする機会を授業に取り入れる。
- ・ユニバーサルデザインを意識した目的と活動が明確な授業づくり
- ・家庭学習につなげる授業づくり(復習、予習、自主学習の充実)と家庭学習の出し方(質と量)の工夫

○落ち着いた学習環境づくり

- ・人間関係づくりを大切にした学級集団づくり、ユニバーサルデザインを意識した学習環境の整備

○補充学習の充実(朝の学習、放課後学習、問題データベース活用)

○生活習慣、学習習慣の確立

- ・家庭学習のスタンダード、家庭学習の手引きに基づいた取組(例:自主学習ノートの活用、手本となるノートの紹介等、成長を実感させる評価の工夫)
- ・中学校区で連携した取組(例:ノーマディアデー・携帯電話、スマートフォンの使用について家庭への啓発等)

※結果分析(○できている ●できていない)

〈学力調査〉

【国語】

○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることが、全国平均より15.2ポイント高いです。

●長文を読み取ったり、複数の条件に合った解答を書いたりする力が弱いです。家庭と連携して読書習慣の定着を目指したり、授業の中で条件やキーワードなどを与えて書く活動を行ったりする必要があります。

●文意に合った漢字を書く力が弱いです。授業や家庭学習で、同音異義語を意識させながら漢字学習をする必要があります。

●複文を接続詞を使って2つの単文にする問題の無解答率が43%でした。文章を推敲する指導の

【算数】

○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることは、正答率100%でした。

●四則計算の意味や理由を説明する問題が弱いです。各学年の授業の中で、計算の仕方を考え説明する場面では、言葉と、図や絵や半具体物と、式とを関連付けながら、記述したり説明したりする必要があります。

●各学年での学習用語や既習事項の定着が弱いです。授業の中で、学習用語や既習事項を繰り返し使う必要があります。

〈学習状況調査〉

○朝食は、全員食べています。8割の児童が、毎日同じ時刻に起床しています。

○9割以上が、家で学校での出来事について話しています。

○全員が、「先生は、自分のよいところを認めてくれている」「先生は、わかるまで教えてくれている」と回答しています。

○「人の役に立つ人間になりたいと思う」については、肯定率100%です。

○全員が、「学校の決まりを守っている」「いじめはいけないことだと思っている」と回答しています。

●家庭学習は、57.2%の人が1時間以上家庭学習をしていましたが、「10分×学年+10分」(70分)を目指して、学習の質と量を向上させます。

●読書時間は全国平均より高いですが、時間の使い方を見直し、活字に親しむ機会を大切にしてほしいで

※学校としての対応・目標

◎「土居小タイム(放課後学習)」を毎日設け、国語や算数の基礎基本の徹底はもちろん、発展問題にも取り組みます。

◎授業では、自力解決やペア・グループ学習の時間を設定し、聞いたり伝えたりする力や、日常生活に活用する力も身につけていくようにします。

◎読書では、自分の思いや願いを大切に本を選び、一人読みが集中してできるように指導します。

◎「漢字検定」「計算検定」を各学期末に実施して、基礎基本の定着を図ります。

◎家庭と連携し、「家庭学習の手引き」「家庭学習がんばりカード」を活用して、「10分×学年+10分」の家庭学習を児童が主体的にできることを目指します。

以上のような学校の指導意図をご理解いただき、ご家庭でもご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。